



浜端

町子さん

14年間ひとつの医院に勤めて、私がつかんだもの。



埼玉県深谷市の丸山歯科医院でチーフ歯科衛生士を務める浜端町子さんは、当院に勤めて14年目になる。当院では、ちょうど彼女が勤め始めた頃から「予防」に力を入れ始めた。しかし当初は、「予防」をやりたいという気持ちだけが先行し、いったい何をやつたらいいのかが分からぬいうえに、そもそも子供の患者さんが少ない医院だったという。そこから、ドクターと歯科衛生士の一人三脚による試行錯誤が始まる。今では、子供からお年寄りまで、中には3世代にわたって通っている患者さんもあり、丸山歯科医院の予防プログラムは、地域の人からゆるぎない信頼と感謝を得ている。それは、浜端歯科衛生士の14年間にわたる、たゆまぬ向上心と彼女自身の成長の賜物にほかならない。

——それで、どうされたのですか？

浜端さん よくセミナーに通いました。セミナーに行くと、そこで知識や技術を習得できるのもためになるのですが、一番大きいのは（仲

——14年間ひとつの医院に勤め続けていると、「自分の人生＝医院の歴史」という感覚なのではないでしょうか。

浜端さん そのとおりですね。患者さんの成長を通じて、年月の流れを感じます。私が当院に勤め始めた頃は小さな小学生で泣きべそをかいていた子が、だんだん大きくなり、いつの間にか背も抜かされて、この間大学生になり「こんど東京で一人暮らしすることになつたんだあ」なんて報告を受ける。そういうときは、感慨深いものがありますね。あの泣き虫だった子がこんなに立派になつたんだなあって。まるで親のように、その子の成長をずっと見てきたわけですからね。地域密着の医院で長く勤めることの喜び

や感動つて、そういうことではないでしょうか。

——患者さんの成長と一緒に、浜端さん自身も成長してきたわけですね。

浜端さん 私も成長しましたし、僭越ですが、医院そのものも成長してきました。私が当院に勤務し始めた14年前、院長が「これからは予防に力を入れたいから、一緒にやっていこう」とおっしゃいました。予防は歯科衛生士の役割が大きな仕事ですし、私自身、予防への関心が高かつたですので、とても意欲が湧きました。ですが、いざやろうとしたときに立派になつたんだなあって。まるで親のように、その子の成長をずっと見てきたわけですね。地域密

着の医院で長く勤めることの喜び

——セミナーに通うことで、「予防」はうまく進められるようになつたのでしょうか？

浜端さん いいえ。予防は、そんなことはできません。でも、予防って、患者さんの行動がともなつてのことですでの、私たちがどんなに「ああしたい」「こうしてあげたい」と思つても、それだけでは一方通行で終わってしまう。つまり、予防は、患者さんが主役で私たちは脇役、しかも、終わりのないストーリー。そこに、難しさと楽しさがあるのだと思います。

同期の歯科衛生士から情報収集しようと思ってきていてみても、先生によつて方針や方法がまちまちで、結局あまり参考にななりません。そもそも、当時はまだ「虫歯の早期発見、早期治療」というのが当たりまえの時代でしたから。

——それで、どうされたのですか？

浜端さん よくセミナーに通いました。セミナーに行くと、そこで知識や技術を習得できるのもためになるのですが、一番大きいのは（仲

間ができる）ということです。セミナーには、自分と同じように悩んでいる歯科衛生士の人たちがたくさん来ています。そういう人たちに出会うことで、「悩んでいるのは自分だけじゃないんだ」「みんなも頑張っているんだ」ということを知ることができます。

が、自分を楽にもしてくれるし、刺激になります。それに、そこで出

会った歯科衛生士仲間とメールでその後もいろいろと情報交換する

ことは、日々患者さんに施す治療に

とつても、たいへん役に立ちます。

——セミナーに通うことで、「予防

はうまく進められるようになつた

のでしょうか？

浜端さん いいえ。予防は、そんなことはできません。でも、予防って、患者さんの行動がともなつてのこと

ですでの、私たちがどんなに「ああ

したい」「こうしてあげたい」と思つても、それだけでは一方通行で終わつてしまつ。つまり、予防は、患者さん

が主役で私たちは脇役、しかも、終わりのないストーリー。そこに、難しさと楽しさがあるのだと思います。

—その難しさを、浜端さんはどうやつて克服していったのですか?

浜端さん 最初の頃は、患者さんが「もう一度医院に来てみたい」と思つてもらえるように治療を終えることを心がけました。「痛くない」「気持ちよかつた」という印象をもつて帰つてもらうこと。…でも、それでも4~5年やつていくと、ひとつの壁にぶつかるんです。「気持ちよかつた、ありがとう」と帰つていく患者さんは、2タイプおりまして、1つはちゃんと定期的に来院してくれる患者さん、もう1つは再度お口の中に困りごとを抱えたときにしかいりつしやらない患者さん。どうすれば後者のタイプの方が前者のタイプの方に変わるのだろうかと悩みました。

—その壁は、どのようにして乗り越えたのですか?

浜端さん 無論、まだ完全に克服したとは思っていません。しかし、大切なのは、口腔内だけでなく患者さんをとりまく環境や背景にも目を向けることです。その患者さんは何を望んでいるのか、また、将来どうありたいのかなど、患者さんの気持ちと向き合い共通の目標設定をする。

人は誰でも、自分の望んでいること

—浜端さんが14年間ひとつのみで、自分の望んでいること

—先ほど、「予防は終わりのないストーリー。そこに、難しさと楽しさがある」とおっしゃいました。「楽しさ」って、何ですか?

浜端さん 予防を進めるには、できるだけ長い間患者さんとお付き合いをしていかなくてはなりません。しかも患者さんひとり一人ちがいますから、出会った患者さんの数だけストーリーがある。大変だけど、そこが楽しい。多くの方のいろいろな笑顔が見られることは、純粋にうれしいことじゃないですか。

—浜端さんが14年間ひとつのみで、自分の望んでいること

—そうですね。でも、少し残念なことに、最近では働いてからわりとすぐに辞めてしまう若い歯科衛生士さんも少なくありません。彼女たちには、彼女たちなりの「辞める理由」があるのでしょうが、患者さんこのことを考えれば、それはよいことではありません。そんな歯科衛生さんに、「長く勤めるコツ」みたいなものがあれば教えてあげてください。

—浜端さんが14年間ひとつのみで、自分の望んでいること

の実現のために積極的に行動します。そのライン上に「歯の大切さ」が伝わればうれしいです。やればやつただけよくなつていく自分を確認してもらつたために、丸山歯科医院では過去の口腔内写真と現在の口腔内写真とを比較できる環境を整えています。そうすることで、患者さんは、やればやつただけ確実によくなつていく自分の歯を、目の当たりにすることができます。これは、かなり効果的ですね。だって、「やればやつただけよくなつていく自分」は、誰だつて望ましい自分にちがいないです。

院で勤められてきた背景には、患者さんとの長い付き合いを大切にしそれを育んできたということが、大きいのでしょうか。

浜端さん あの患者さんのために、

今日は明日、明日よりはあさつて、自分はもつとうまくなつていた

と思つ…私の場合、そうやって成

長してこられたように思います。人

と長く付き合うことが、自分を成長

させ、人生を豊かにしてくれるので

はないでしょうか。豊かな人間関係

を築いていくことで、自分の人生も

豊かなものになつていく。歯科衛生士という仕事は、さまざまな患者さんとの接触を通じて豊かな人生を築ける数少ない素晴らしい仕事にちがいありません。

—その壁は、どのようにして乗り越えたのですか?

浜端さん 無論、まだ完全に克服し

たとは思つていません。しかし、大

切なのは、口腔内だけでなく患者さ

んをとりまく環境や背景にも目を

向けることです。その患者さんは何

を望んでいるのか、また、将来どう

ありたいのかなど、患者さんの気持

ちと向き合い共通の目標設定をする。

人は誰でも、自分の望んでいること

—浜端さんが14年間ひとつのみで、自分の望んでいること

—えず、気づいたら14年間ここにいた

という感じですので…。月並みで

が、「適度に体を休める」「ストレス

をためない」といった環境を作るこ

とではないでしょうか。その意味で

も、セミナーへの参加はおすすめで

す。そこで作る仲間が、精神的な休

息やストレス解消の機会を与えて

くれると思います。何を隠そう、私

にとって人生いちばんの楽しみの

ひとつは、セミナー後の懇親会です

から(笑)。



歯科衛生士
浜端町子さん
丸山歯科医院 勤務
〒366-0029
埼玉県深谷市上敷免365
TEL.048-571-0889
休日:木・日・祝日
アクセス:JR高崎線 深谷駅車7分
秋号P43に丸山歯科医院の医院情報記載
浜端さんの出身校
【(現)埼玉県立大学 保健医療福祉学部
健康開発学科 口腔保健学専攻】